

下水道管の全国特別重点調査にかかる 「調査結果(優先的調査箇所)」について(報告)

- 埼玉県八潮市での道路陥没事故を受け、国土交通省から実施要請のあった「全国特別重点調査」について、北九州市では5月30日から該当する下水道管54kmの調査を実施中。
- このうち、腐食しやすい箇所など優先的な調査が必要な管3.6kmの調査結果がまとまったため、報告するもの。

1 調査期間

- ・ 令和7年5月30日～令和8年3月下旬

2 対象施設

- ・ 直径2m以上で設置後30年以上経過した下水道管 約54km
※このうち、腐食しやすい箇所など優先的な調査が必要な下水道管 3.6km
〔・埼玉県八潮市の道路陥没現場と類似の構造・地盤条件の管〕
〔・構造的に腐食しやすい管〕

3 調査方法

- ・ 管内調査(目視調査・ドローン調査・打音調査)
- ・ 空洞調査(管内調査で「緊急度Ⅰ」または「緊急度Ⅱ」と判定された箇所)

4 調査結果

- ・ 優先的な調査が必要な管(3.6km)において、道路陥没につながる破損は確認されませんでした。

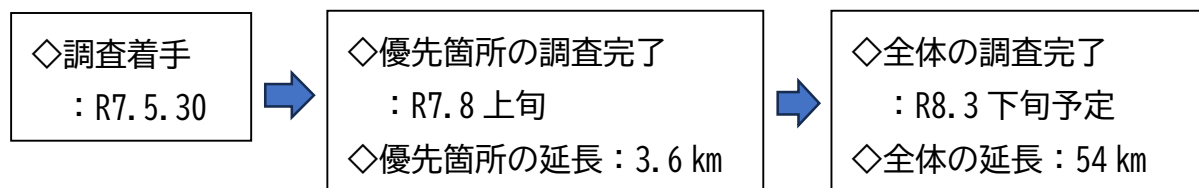
<内訳>

- ・ 原則1年以内に対策が必要な「緊急度Ⅰ」: 1.1km
- ・ 5年以内に対策が必要な「緊急度Ⅱ」 : 1.7km
- ・ 劣化の異状なし : 0.8km

5 今後の対応

- ・ 「緊急度Ⅰ」及び「緊急度Ⅱ」に判定された管については、計画的に補修、更新を実施

○特別重点調査の流れ



○優先箇所の調査結果（行政区ごとの内訳）

【単位：m】

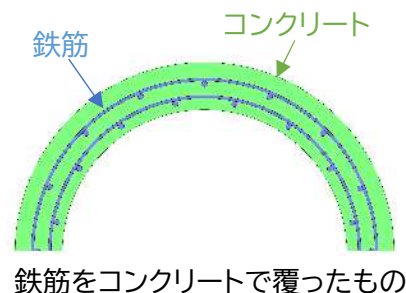
行政区	緊急度Ⅰ	緊急度Ⅱ
門司区	22	－
小倉北区	528	574
若松区	602	119
八幡東区	4	211
八幡西区	－	748
合計（2,808）	1,156	1,652

※小倉南区及び戸畑区については、該当なし

○緊急度判定のイメージ



【鉄筋コンクリート管の構造】



【緊急度Ⅰ】

腐食により表面のコンクリートが剥離し、鉄筋が露出している状態



【緊急度Ⅱ】

腐食によりコンクリートの砕石が露出し、ざらついているのが見える状態